

『漢語方言地図集』 と漢語方言地理情報システム

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/17863

『漢語方言地図集』と漢語方言地理情報システム

劉 曉海 (北京語言大学語言研究所)

曹志耘教授が主宰する『漢語方言地図集』プロジェクトは最終的な段階に入った。『漢語方言地図集』編纂の過程は、実際には漢語方言地理情報システム構築の過程でもある。地理情報システム(Geographic Information System,略 GIS)は、コンピュータシステム、地理情報及びユーザによって構成され、地理情報の集成、保存、検索、操作及び分析を通じて、様々な地理情報を形成したり出力することで、土地利用、資源管理、環境観測、交通運輸、経済建設、都市計画及び政府機関の行政管理などに新たな知識を与え、工程設計と企画、管理戦略などに役立つ(陳述彭 1999)。漢語方言地理情報システムは、地理情報システムを言語学研究分野に応用し、地理情報システムのもとで方言データと地理データをまとめ合わせ、分析処理することによって、漢語方言など研究分野に便宜を提供するコンピュータ情報システムである。

方言地図の作成は漢語方言地理情報システムの一つの重要な応用であり、全体の過程は前段計画、データ準備、データ処理、作図・公開の四つの段階に分けられる。ここでは主に技術応用に関係がある後三段階を紹介する。

1 データ準備

1.1 方言調査を通して方言の属性情報を獲得する。これは非常に重要な基礎作業であり、ここでは詳しく述べない。

1.2 調査材料を Word ファイルに入力した後、Excel ファイルに変え(データベースに認識させるため)、その後データベースに入れる。データベースは Oracle、SQL、Server、MySQL など多くのソフトから選ぶことができる。

1.3 地理データを獲得し、データベースに入れる。

2 データ処理

2.1 データの予備処理

この段階では、主にデータに対する規範化作業が行われる。例えば、声母、韻母の切り分け、声調表記の規範化、誤りの発見と訂正など。

2.2 本処理

要望に応じてデータに対して分析、取り出し、分類、取りまとめなどの作業を行ない、“簡表”を作成して専門家に分類をせよ。専門家の分類結果に基づいて、データベースの中で自動的に注をつけた後、それを取り出して、“言語情報総表”を生成する。最後に地理情報と併せて“言

語地理情報総表”を生成する。

3 地図作成と公開

3.1 地図作成ソフトへの“言語地理情報総表”の読み込み

この段階で“総表”ファイルを地図作成ソフトが認識できる形式に変えなければならない。ソフトウェアによってフォーマットが異なる。現在よく使われる地図情報システムソフトウェアは Arcgis, Mapinfo, Mapgis などであり、すべてが作図モジュールを有している。

3.2 地図作成

地図(国境、省境、省、県など)と言語属性情報(ある地点でどの方言が話されているか)の全てがベクトルデータとして表示され、最終的に示されるのは、経度、緯度情報に基づいてコンピュータ上で計算される点、線、面である。それゆえ、事前に座標系と投影形式を選ぶ必要がある。その後、言語属性の違いに基づいて、表示地点或いは地域に記号が与えられる。もし異なる地点や地域が同じ方言属性をもっているとすれば、それらに同じ記号が与えられる。

3.3 レイアウト設計

主に地図に示す範囲の比例、凡例の内容と位置、文字フォントなどについて設定を行なう。

3.4 公開

一般に二つの方式がある。一つは伝統的な紙版印刷。もう一つは専門のソフトウェアを使ったデジタル版であり、読者は特別に作られた閲覧器を使って閲覧する。但し内容を修正することはできない。デジタル版では情報をより多く掲載することができる。

[参考文献]

陳述彭・魯学軍『地理信息系统導論』北京:科学出版社 1999.

(翻訳: 阿布都西庫尔・阿不都熱合曼)